

媒体名	埼玉新聞
掲載日	2005年5月15日(日)

まんが喫茶、人気再燃

サービス多彩、癒やしの場

漫画本を図書館並みにそろえた「まんが喫茶(まん喫)」が、インターネット使い放題、サーバー設置などサービスをアップして、人気を取り戻している。漫画で育った二十代から四十代の男女を中心に、ひとときの癒やしの場になっているようだ。

漫画本は新旧合わせて約二万冊。木製の壁で間仕切りされた二十七の席にはインターネット用パソコンが置かれ、ふかふかのリクライニングシートが備えられている。男性店員はスーツにネクタイを着用して高級感を演出。間接照明でやや暗めの店内には、ジャズが静かに流れている。

漫画を読むだけでなく、無料で使えるパソコンでゲームにふける若者も多い。料金は最初の一時間が四百二十円で、コピーやジュースなどはお代わり自由。「上質な安らぎの空間を提供したい」と佐藤誠店長。「昼休みに弁当を持ち込んでひと息入れる方や、仕事帰りに立ち寄って二、三時間のんびり過ごされる方が多い」。近所では一人暮らしの男性は「自分の部屋より



しゃれた雰囲気「まんが喫茶」で足を伸ばしてくつろぐ女性—東京都新宿区

り居心地がいいと話す。高田馬場の「ルシエル」学生町の町である東京・高田馬場店は、一日

二百人以上の利用者のはほぼ半数が女性だ。約二万五千冊の漫画本の約三割が少女コミックで、女性ファッション誌も数十種類が本棚に並ぶ。畳一畳ほどの和風個室、二人掛けのソファを備えたカップル向き、明るいカフェ風のコーナーと多彩に用意され、サーバー室まである。終電車を逃して夜明けする客もいるとか。

「女性には清潔感が大事」(山本裕美店長)と、いすや机、ヘッドホンなどは使用後にアルコール消毒している。業界団体「日本複合カフェ協会」(東京)によると、まん喫は一九八〇年ごろ名古屋で誕生。バブル経済とともに全国に広まったが、「まんが喫茶イコールおたくの集まる場所」とのイメージが強まり一時衰退した。九〇年代後半からレストラン並みの食事やネイルアートなど個性的なサービスを導入して再び急成長、昨年の一年間で約五百店も増え、計約三千店に達している。お客のニーズを取り込んで再生したまん喫、さて次の一手は?